

兵庫の林業

令和8年度林業普及事業の展開

「第5次山地防災・土砂災害対策計画」の策定と「災害に強い森づくり」の新たな展開



もくじ

令和8年度 県功労者知事表彰・1	
環境保全功労者知事表彰・1	
自然環境功労者環境大臣表彰・1	
〈兵庫県立森林大学校〉学生募集と	
オープンキャンパスのご案内・2	
令和8年度林業普及事業の展開・3	4
第5次山地防災・土砂災害対策計画・5	
災害に強い森づくりの新たな展開・6	
〈研究報告〉現況植生を活用した人	
工林の針広混交林への誘導・7	
「六甲山の災害展」のご案内・8	
「播磨の緑」の苗木生産開始・8	
森林環境譲与税の活用(朝来市)・9	
森林ボランティア活動紹介・9	
〈普及だより〉獣害対策支援の取組・10	
伐木災害防止研修・林業体験講習のご案内・11	
木材市況・住宅着工数の報告・12	
(ひょうご木の物語) 日本土地山林(裏表紙)	
題字・ 兵庫県知事 齊藤元彦氏	

表紙の写真

「豊かなむらを災害から守る月間」運動による防災パトロール(丹波市春日町)

兵庫県では、毎年6月を「豊かなむらを災害から守る月間」と定め、梅雨や台風の時期を前に農山村地域の災害を未然に防ぐために県と市町、県土地改良事業団体連合会、(二社)県治山林道協会、県ため池保全協議会が協力して、防災力の向上を図る運動を実施しています。

写真は、本年6月に丹波県民局、丹波市役所、丹波市消防本部、丹波警察署で実施した合同防災パトロールで、治山施設やため池等を点検しました。

令和8年度 県功労者表彰等被表彰者の皆様

兵庫県功労者表彰(農林水産功労)

名 田 健 吾 氏

兵庫県木材業協同組合連合会 理事



主なご功績

氏は、平成28年4月に神戸木材仲買協同組合と神戸木材協同組合が合併した神戸木材仲買協同組合（現神戸木材業協同組合）初代の専務理事として就任され、新しい組合体制構築や組合名称の変更に尽力されるなど、神戸、阪神地域を中心とした県下の木材産業の振興・発展に大きく貢献されました。

さらに、令和元年度からは兵庫県木材業協同組合連合会の理事となり、地域・県域の木材産業の振興・発展に尽力されているほか、県民に木材の良さを知ってもらうイベント「ひょうご木材フェア」の出展企画に積極的に参加され、自らも木工教室に携わり参加者への指導に努めるなど、木材利用の普及に取り組まれています。

環境保全功労者知事表彰

的形ふるさと里山会（姫路市）



主なご功績

同会は、平成20年4月に地元有志で設立され、活動地である姫路市の形町を囲む里山において、雑木林や竹林、登山道の整備に取り組まれています。

同会の活動地は半世紀以上の放置により荒廃していましたが、数年にわたる整備活動によって、全長約10kmの登山道を擁する「的形ふるさと里山回廊」として復活し、今では市内外から多くの人々が訪れ、「的形アルプス」として親しまれています。

また、同会は地元小中学校の環境教育の積極的な受け入れや町外の企業・団体による登山会のガイドを行うことで、森林や環境の重要性を広く伝えられています。

兵庫県功労者表彰(環境功労)

永 井 唯 晴 氏

フォレスター松寿（神戸市） 代表世話役



主なご功績

氏は平成24年9月に「フォレスター松寿」へ入会し、役員を歴任したのち、平成31年4月から代表世話役に就任し、同会による森林整備・植樹・登山道整備活動を牽引されてきました。

その結果、荒廃していた六甲山の古道「魚屋道（ととやみち）」は多くのハイカーが訪れる登山道として蘇ったほか、一般参加も可能な植樹会が定期的に開催され、自然に触れ合う機会の提供と里山の普及啓発に大きく貢献されています。

また、氏は兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会委員をつとめ、令和6年度から同協議会会長に就任し、県内森林ボランティアの活性化と普及啓発に努められています。

本県からの令和8年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰受賞者

なお、兵庫県から推薦された次の2つの団体は、自然環境の保全に関して顕著な功績のあった団体として、令和8年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞されました。

兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会（保全活動部門）

所在地：養父市

ウスイロヒョウモンモドキの保護について、繁殖地として残る地元の団体として、長年に渡り献身的な活動に尽力。
(林学職OBの近藤氏が活動されているそうです。)

アマフォレストの会（いきもの環境づくり・みどり部門）

所在地：尼崎市

工場跡地に生物多様性の森を創造するため、植樹や補植、間伐や除草などの維持管理、他団体が行う森づくりへの指導・支援、環境体験学習の実施など、幅広い森づくり活動に尽力

〈兵庫県立森林大学校〉学生募集とオープンキャンパス開催のお知らせ

兵庫県立森林大学校では実践的な知識と技術を学び、未来の森林・林業を担う人材を育成しています。このたび、オープンキャンパスを開催するとともに、令和9年度入学生の募集を開始しましたのでご案内します。

1 兵庫県立森林大学校の特徴

- ★関西で唯一の森林を専門とする2年制専修学校
- ★森づくり創造科を卒業時に、「専門士」の称号を付与
- ★就業に有利な資格22種が取得可能
- ★延べ150名を超える豊富な求人（令和7年度実績）
- ★学費・住宅支援制度が充実



1年生集合写真



伐木実習状況

2 令和9年度入学生募集

令和9年4月1日入学の学生を募集しています。

(1) 入試日程及び入試区分 等

日程	7/26(日)	10/4(日)	12/13(日)	3/14(日)
区分	一般 自己推薦 事業体推薦	指定校推薦 学校推薦	一般 自己推薦 事業体推薦	一般 自己推薦 事業体推薦
出願期間	6/26～7/10	9/4～9/18	11/13～11/27	2/12～2/26
試験会場	森林大学校		兵庫県姫路総合庁舎	
定員	定員20名			
試験科目	推薦：小論文（400字程度）1題、面接 一般：小論文（400字程度）2題、面接			

(2) 出願資格

一般・共通	令和9年4月1日現在、40歳以下で、高等学校卒業または同等の学力を有する者
自己推薦	経験を活かし経歴等から自ら推薦できる者
事業体推薦	事業体が推薦する者
学校推薦	評価平均3.0以上で、高等学校長が推薦する者

(3) その他

募集要項や募集チラシなど、より詳しい情報については、以下の県ホームページをご覧ください。

森林大学校 入試

https://web.pref.hyogo.lg.jp/cs01/gakuseiboshu_2020.html

3 オープンキャンパスの開催

林業体験や学校の説明、個別相談などで構成するオープンキャンパスを以下の予定で開催します。

当日は、在校生も参加し、学校生活の“生の声”も聞いていただけます。

入学を検討されている方は、気軽に参加下さい。

なお、事前に連絡をいただければ、随時、学校見学いただけます。

○オープンキャンパス(7・8月)開催スケジュール

開催日	7/20(月・祝)	8/23(日)
内 容	■高性能林業機械体験（本校周辺の伐採現場で実施予定） ■シカ肉バーガー試食 ■学校説明会・個別相談会	■学生の林業機械実演（校庭にて本校学生が実演します。試乗も可能） ■学校見学 ■学校説明会・個別相談会
申込期限	7/10(金)	8/21(金)
場 所	森林大学校ほか	森林大学校

※参加には事前申込が必要となります。

※詳しい情報は、以下の県ホームページをご覧ください。



林業機械実演



在校生による学校紹介

森林大学校 オープンキャンパス

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/aff/news/news02.html>



4 問合せ先

兵庫県立森林大学校（TEL：0790-72-2700）
なお、本校についての詳しい情報は、本校にお電話いただくか、以下の県ホームページをご覧ください。また、SNSで本校の魅力や学校生活などを紹介していますので、是非、ご覧下さい。

森林大学校

https://web.pref.hyogo.lg.jp/aff/cate2_410.html



県HP



YouTube



Instagram

令和8年度林業普及事業の展開について

兵庫県農林水産部 林務課

■はじめに

本県の森林は、人工林の多くが本格的な利用期を迎えており、この豊富な森林資源を伐採して利用し、伐採した跡には、木を植えて育てるといった森林資源の循環利用を進めていくことが、これからのカーボンニュートラルを目指す社会で求められています。

森林資源の循環利用である主伐・再造林を推進していくためには、森林所有者の収益が確保され、さらに森林の更新が確実に行われることが重要です。このため、県では、収益を確実に確保し、森林の更新も確実にを行うための事業地の条件や実施方法等を提案した「低コスト普及モデル」を令和6年3月に作成しました。この普及モデルを林業事業体に対して広く普及を図っていくとともに、循環型林業を構築していくために必要な林業技術者の確保・育成や、地域で生産された木材の需要拡大にも取り組む必要があります。

また、森林経営管理制度、森林環境譲与税等、林業行政の中でその役割が非常に大きくなっている市町の支援にも取り組んで行く必要があります。

このため、令和8年度、林業普及指導事業として、以下のことについて重点的に取り組んでいきます。

■令和8年度林業普及指導事業の重点事項

1 森林資源の循環利用と林業経営の効率化

木材生産と環境保全の調和がとれた森林へ誘導するため、林業経営に適した人工林と、奥地等の条件不利地にある人工林のゾーニングをすすめます。

林業経営に適した人工林では、資源の循環利用を推進する森林（木材生産林）として、森林所有者ごとに小規模・分散している森林を集約し、森林整備を森林経営計画制度により計画的に進めます。また、「主伐・再造林低コスト普及モデル」に示す低密度植栽や下刈の省力化などの手法による主伐・再造林を推進します。

条件不利地にある人工林については、管理コストの低い自然に近い森林へと誘導するため、市町が行う森林経営管理制度や森林環境譲与税等を活用した森林整備が円滑に進むよう支援します。

県立森林大学校では、「事業者高度化コース」により林業従事者向けに総合的・体系的な技術研修を実施します。また、林業就業希望者を対象にガイダンス等を開催し、林業従事者の確保にも取り組んでいきます。



再造林地の調査（香美町）

2 県産木材の利用拡大と加工流通体制の強化

県産木材の利用拡大に向けて、県立森林林業技術センターが開発・実用化した高強度梁仕口「TAP OS」や「心去り平角材」について、工務店等を対象に普及を進めるとともに、技術的支援等により市町の公共施設や民間非住宅建築物の木造・木質化を推進します。

「兵庫県県産木材の利用促進に関する条例」に基づき、県民の県産木材利用意識の醸成を図るため、子どもから大人まで切れ目のない木育の展開や、「ひょうご木材フェア」等のイベントにより、木材の良さや魅力を普及するとともに、利用することで森林整備が進むことを啓発し、県産木材利用の意識醸成を図ります。



大規模商業施設の木質化（神戸市）

3 野生動物の捕獲や被害対策に向けた体制づくり

シカ、イノシシなど野生動物ごとの管理計画に基づき、捕獲等による適正な個体数管理を推進します。そのため、森林動物研究センターにおいて、県及び市町職員に対し、獣種別に被害対策研修を実施し、効果的な対策の普及を図ります。

また、被害の現状把握など被害管理に対する地域全体での共通認識の形成を進め、ICT技術とデータに基づいた効率的な捕獲や獣害防護柵の維持管理等を行うスマート獣害対策モデルを育成します。



箱わなによる捕獲指導（丹波市）

4 豊かな森づくりの推進

森林の防災面での機能強化を図るために作成した「災害に強い森づくり指針」に基づき、県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」の普及啓発と事業の円滑な実施に努めます。

「ひょうご里山フェスタ」等のイベントや学校教育等との連携を通じ、森にふれる体験や学習の機会を拡充します。また、森林の防災・水源涵養など多面的な価値や、県民緑税・森林環境税の役割を分かりやすく発信し、県民一人ひとりが森林を支える主体として関与できる機運の醸成を図ります。さらに、森林ボランティア、企業等多様な主体による森づくり活動への支援を行います。



農地周辺のバッファゾーン整備（新温泉町）

以上、皆様とともに「多様で健全な森林を次代につなぐ」取組を進めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

林務課林政調整班主幹（林政推進・普及担当）

高山 勉

令和8年度 林業普及指導職員名簿

	職 名	氏 名	普及指導区
革新支援その他	林 務 課 (5名)		
	林政調整班主幹	高山 勉	全県
	主任森づくり支援専門員	岡田 英樹	全県
	森づくり支援専門員	谷口 晶宣	全県
	主任森づくり支援専門員	福島 智則	全県
	森づくり支援専門員	高寄 誠	全県
	森林林業技術センター (3名)		
	林業専門技術員	上川 総司	全県
	林業専門技術員	浅田 佐知子	全県
	主査	山下 毅	全県
	県立森林大学校 (1名)		
	主査	船曳 恵理子	全県
	計	9名	

神戸阪神東播淡路普及指導区	神戸農林振興事務所 (2名)		
	森林課長	西住 真則	神戸市
	主任	赤松 遼平	神戸市
	阪神農林振興事務所 (3名)		
	里山・森林課長	紙本 雅弘	管内全域
	主任	藤原 美雪	管内全域
	主任	村上 拓	管内全域
	加古川農林水産振興事務所 (1名)		
	主任	村田 淳	管内全域
	洲本農林水産振興事務所 (4名)		
	森林課長	村上 晴茂	管内全域
	農政専門員	上野 茂樹	管内全域
	主査	大橋 正知	管内全域
	主査	鈴木 大智	管内全域
	計	10名	

北播丹波普及指導区	加東農林振興事務所 (5名)		
	所長補佐兼森林課長	下郷 太郎	管内全域
	農政専門員	谷口 英樹	西脇市・加西市
	課長補佐	川崎 大	加東市
	主査	岡本 朋美	三木市・小野市
	副主任	古井 真陽	多可町
	丹波農林振興事務所 (4名)		
	森林課長	上村 公浩	丹波篠山市（旧篠山町・西紀町）
	課長補佐	南都 義道	丹波篠山市（旧丹南町・今田町）
	主任	森本 麻友美	丹波市氷上町・青垣町・山南町
	主事	津欄鹿 信雄	丹波市柏原町・春日町・市島町
	計	9名	

中播西播普及指導区	姫路農林水産振興事務所 (5名)		
	森林課長	小長井 信宏	管内全域
	主査	石坂 知行	福崎町
	主査	近谷 有希	市川町
	主査	竹野 世志成	神河町
	副主任	藤本 駿佑	姫路市
	光都農林振興事務所 (3名)		
	所長補佐兼森林第1課長	岩成 麻子	相生市、赤穂市、太子町、上郡町、たつの市
	課長補佐	浅田 知宏	宍粟市（一宮町、波賀町、千種町）
	主査	大黒 明子	宍粟市（山崎町）、佐用町
	計	8名	

但馬普及指導区	豊岡農林水産振興事務所 (3名)		
	森林課長	上田 敦祐	豊岡市
	主査	畝井 良幸	香美町
	副主任	衣笠 友基	新温泉町
	朝来農林振興事務所 (4名)		
	森林第2課長	雑賀 謙彰	朝来市（和田山・山東地区）
	課長補佐	上坂 亮太	養父市（養父・八鹿地区）
	主査	小倉 佳紀	養父市（大屋・関宮地区）
	主任	福田 祐介	朝来市（朝来・生野地区）
	計	7名	
	合計	43名	

「第5次山地防災・土砂災害対策計画(R8～R12)」を策定しました！

兵庫県農林水産部 治山課

1 はじめに

兵庫県では、平成21年台風9号災害を契機に策定した「山地防災・土砂災害対策計画」に基づき、治山ダム等や砂防堰堤の整備、災害に強い森づくりに取り組み、自然災害に備えた強靱な県土の構築を推進しています。

その結果、豪雨時等に流木・土砂を捕捉するなど、各種施設が整備効果を発揮しています。



流木・土砂の流出を抑制する
流木捕捉型治山ダム(佐用町)



土砂の流出を抑制する
治山ダム(養父市)



流木・土砂の流出を抑制する
流木捕捉型治山ダム(丹波市)



流木の流出を抑制する
災害緩衝林(多可町)

2 第5次山地防災・土砂災害対策計画の策定

平成30年7月豪雨以降は、県内で同規模の災害は発生していないものの、令和5年8月の台風7号を始め全国的にも局地的豪雨(80mm/h)の回数が増加しており、気候変動に伴う豪雨の増加に伴う災害リスクが、依然として高くなっています。

このため、令和7年6月に閣議決定された「第一次国土強靱化実施中期計画(令和8～12年度)」を踏まえ、防災・減災の取組を切れ目なく進めるため、令和8年度から令和12年度を計画期間とする第5次山地防災・土砂災害対策計画(以下「第5次計画」という。)を策定しました。

【整備目標】 (箇所数)

第5次	計画期間	①治山事業		②災害に強い森づくり	③砂防事業	合計
		人家等保全対策	流木・土砂流出対策	緊急防災林整備(渓流対策)	人家等保全対策	
	R8～R12	260	175	52	250	737

※当計画は「ひょうごインフラ整備プログラム」の分野別計画のため、プログラムの改定により見直す場合があります。

3 計画方針

災害リスクの高い山地災害危険地区への治山ダム等の整備や、流木災害のおそれがある危険渓流への災害緩衝林整備等を実施し、人家等保全対策及び流木・土砂流出防止対策に取り組みます。

①人家等保全対策 [260箇所]

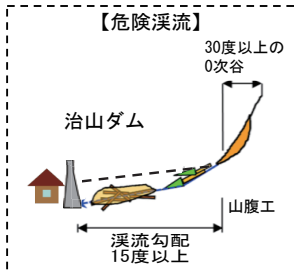
公共施設や人家等の重要な保全対象に近接する箇所において、山地防災対策として治山ダム等を優先的に整備します。



人家等保全対策(三田市)

②流木・土砂流出防止対策 [175箇所]

豪雨時に流木・土砂流出リスクの高い人工林で急勾配渓流や0次谷(溪流頭部で豪雨時に雨水が集中し、土砂災害の発生源となりやすい山の凹地形)の下流域において、流木災害への備えと土砂流出防止を目的とした治山ダム等を整備します。



③災害に強い森づくり(緊急防災林整備(渓流対策)) [52箇所]

谷筋に人工林があり、上流に0次谷が存在するなど、流木災害のおそれがある危険渓流において、倒木などの危険木の除去や本数調整伐などによる災害緩衝林整備を行うほか、簡易流木止め施設を整備します。



伐採木の除去と災害緩衝林整備、簡易流木止め施設の設置

4 おわりに

治山事業や災害に強い森づくり事業は、森林の維持・造成を通じて、山地における地震や豪雨等に起因する災害から県民の生命・財産を守るとともに、水源涵養や生活環境の保全・形成を図ることを目的としています。

近年の異常気象により突発的な豪雨が頻発しており、急勾配渓流や0次谷などを中心に土砂災害や流木被害の危険性が増加しています。このため、災害への備えを一層強化していくことが重要となっています。

今後も、第5次計画に基づき、災害リスクの高い山地災害危険地区において、治山ダム等の整備や、災害緩衝林整備などの山地防災対策を着実に推進し、県民の安全・安心の確保に取り組んでまいります。

(県治山課 吉松 智)

「災害に強い森づくり」の新たな展開について

兵庫県農林水産部 治山課

1 はじめに

平成16年に兵庫県を襲った一連の台風は、各地で山崩れや風倒木などの甚大な被害をもたらし、私たちに森林を整備して防災機能を高めることの必要性を改めて強く認識させました。

これを受け、県では、県民共通の財産である森林の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、平成18年度から県民緑税を活用し、「災害に強い森づくり」に取り組んでいます。

事業では、間伐木を利用した土留工や簡易流木止め施設の設置、集落裏山の危険木伐採や奥山の針広混交林化、山裾のバッファゾーン整備など、これまでに約46千haを整備し、森林の防災機能の強化や野生動物被害の軽減を図ってきました。

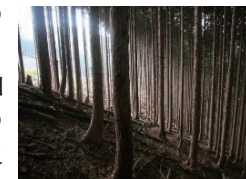
しかしながら、森林の防災機能の強化や野生動物被害対策への県民ニーズは依然として高いことから、令和8年度から新たに第5期対策に取り組むこととなり、今回はその取り組みについて紹介します。

2 社会情勢の変化に伴う新たな課題

令和6年度に実施した事業検証委員会において、社会情勢の変化に伴う新たな課題が示されました。

①災害発生が危惧される森林の増加

高精度な森林情報の整備により山地災害危険地区を見直した結果、被災リスクの高い森林が顕在化。都市部を中心に未整備箇所の対策が急務。



手入れ不足の人工林

②手入れ不足の高齢人工林の増加

収益が期待できない人工林の放置により、風倒などの気象害リスクが増大。

③野生動物被害の深刻化

集落や農地裏山の手入れ不足によって野生動物が棲みつき、特にシカ・イノシシ等による農作物被害が深刻化。



農作物被害の状況

④県民の理解醸成の充実

森林の公益的機能の重要性や税の徴収意義・活用方針等について、都市住民を中心に幅広い世代への理解醸成を深めていくことが必要。

また、同委員会から、これらの課題解決に向けて県が取り組むべき内容について提言をいただきました。

<提言の一例>

- ・目標林の設定、将来的な管理方法や方向性を踏まえた整備方針の検討
- ・県民の理解醸成、森林を活用した防災教育の推進
- ・各事業の適切な実施による防災機能の強化
- ・県民緑税と森林環境(譲与)税の役割や県民へのわかりやすい説明

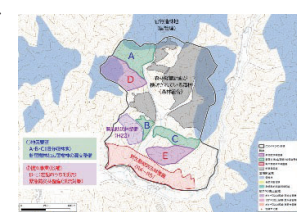
3 第5期対策の新たな取り組み

第5期対策では、これらの課題や委員会の提言を踏まえて新たな取り組みを検討し、以下の2点について重点的に進めていく方針としました。

①流域全体の一体的な森林整備

手入れ不足の人工林への対策を強化するため、これまで個別に対応してきた事業の一部を見直し、県が主導して流域全体の一体的に整備できる「流域の森整備」を新設しました。

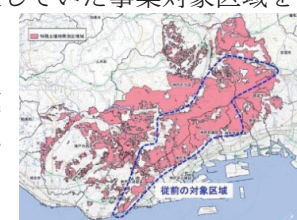
地域の意向も踏まえながら、適切な森林整備プラン(グランドデザイン)を提案・整備する新たな仕組みを導入することにより、短期間で効率的に地域の森林の防災機能の向上を図ります。



一体的整備プランのイメージ

②都市近郊における森林整備の促進

直下に市街地や重要インフラが近接し、ひとたび災害が発生すると甚大な被害が想定される都市近郊の森林の防災機能向上を重点的に推進するため、これまで六甲山系に限定していた事業対象区域を、同様に災害が発生しやすい「特殊土地地帯指定地域」に拡大し、より広域で都市山の防災機能強化を支援します。



都市山防災林整備の対象区域

4 事業規模

第5期対策(R8～R12)では、約93億円の事業費により6,170haの整備を見込んでいるほか、特に緊急性が高い地域については、第4期追加対策(R7～R9)として約13億円を投入し、518haを整備する予定です。

5 おわりに

森林の適切な整備には、長い時間と多額の予算を要することから、県民の理解が何よりも重要です。

治山課では、森林の公益的機能や森林整備の重要性を幅広い世代の方々に知っていただくため、高校生向けの出前授業や各種イベントでの普及啓発を進めています。

今後は、森林整備の実施とともに、これらの活動により森づくりに対する県民の理解と共感を深めることで、豊かな森を健全な姿で次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでまいります。

(治山課森づくり整備班長 千坂竜一)



県立高校での出前授業(R8.6月)

研究報告

現況植生を活用した人工林の針広混交林への誘導に関する研究

兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター 森林活用部 伊東 康人
木材活用部 浅田佐知子

1 はじめに

木材生産が見込めない奥地などの針葉樹人工林では、針広混交林への誘導が有効な森林整備手法の一つとされ、これを低コストで実現させるためには、人工林内の現況植生を活用することが重要です。

そこで、針葉樹人工林内で植生調査を実施し、現況植生を活用した針広混交林への誘導方法を検討しました。

2 調査方法

調査は、兵庫県多可町箸荷の60年生のスギ、ヒノキ人工林で実施しました。この人工林では、過去に複数回の間伐が実施されています。周辺のシカ目撃効率（狩猟者による1日あたりの平均シカ目撃数）は低下傾向にあり、直近10年間の平均は1.18、それ以前の10年間の平均は1.54となっています。

人工林内に10m×10mの調査区を20ヵ所（スギ林8ヵ所、ヒノキ林12ヵ所）設置し、下層に出現した樹高30cm以上の樹種を対象に種名、樹高、樹冠サイズを個体ごとに記録するとともに、光環境の指標として調査区の開空度を測定しました（写真1）。

3 結果と考察

調査区の平均開空度は19%（最小14%、最大21%）でした。総出現個体数は896個体、出現樹種の概要は表1のとおりで、平均樹高は80cm（最小30cm、最大365cm）でした。NMDS（非計量多次元尺度法）の結果、調査区は序列空間上で一つにまとまって配置され、各調査区の植生に明確な違いは認められませんでした。

高木性常緑樹のアラカシ、シロダモが比較的多く出現したことから、高木層で針葉樹と広葉樹が混交する針広混交林を目指す場合、これらが有力な候補と考えられます。アラカシ、シロダモが出現した調査区ごとの平均樹高と開空度の関係性を解析したところ、両樹種とも両者の関係性は認められませんでした（図1では、明るくなるほど樹高が高くなるようにも見えますが、統計的な有意性は認められませんでした）。本調査では、アラカシ、シロダモが出現し、大きく成長できる立地条件を明らかにできなかったため、今後この点についてさらに調査を進める必要があります。

一方、高木性落葉樹は、ほとんど出現しなかったことから、高木層で落葉樹を混交させるのは難しいと推

察されます。針広混交林への誘導は、森林の多様性向上にも寄与することから、高木層以外の階層で落葉樹（例えば、本調査で多く出現したクロモジ）を残存させることも選択肢の一つです。

また、調査区では、周辺のシカ目撃効率の低下傾向に加え、シカの嗜好性が高く、生息指標となるナガバモミジイチゴが確認されたことから、シカ生息密度が実際に低下していると考えられます。このため、シカの食害によって、これまで消失していた樹種が残存し、成長が抑制されていた樹種が大きく成長することで、植生が変わる可能性もあります。植生が変われば、残存させる樹種など針広混交林への誘導方法も再検討する必要がありますので、その変化を見逃さないように調査を継続していく予定です。

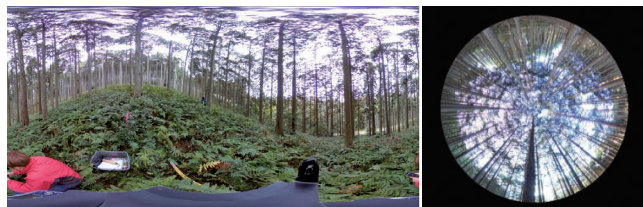


写真1. 360度カメラで撮影した調査区の植生と開空度

表1. 調査区に出現した樹種の概要

主な出現樹種 (総出現個体数に占める割合)	出現した高木性樹種 (出現個体数)	高出現頻度樹種 (出現調査区数)
ヒサカキ (43.6%)	常緑広葉樹 アラカシ (31)	ヒサカキ (16/20)
コガクウツギ (21.3%)	シロダモ (23)	コバンノキ (13/20)
クロモジ (6.6%)	落葉広葉樹 スダジイ (6)	クロモジ (10/20)
コバンノキ (6.0%)	クリ (8)	アラカシ (9/20)
アラカシ (3.5%)	ウリハダカエダ (3)	シロダモ (9/20)
	ヤマザクラ (3)	ヤブムラサキ (9/20)
	針葉樹 コナラ (1)	
	タラノキ (1)	
	スギ (1)	
	ヒノキ (1)	

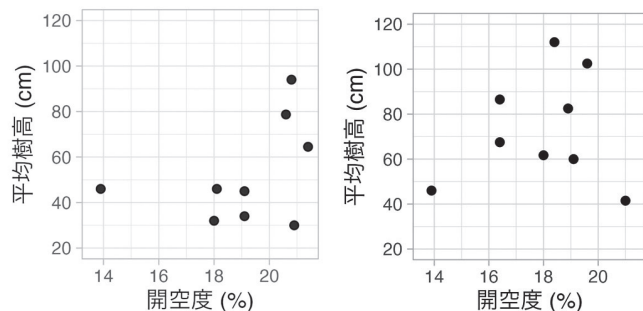


図1. 調査区ごとの平均樹高と開空度の関係
(左図がアラカシ、右図がシロダモ)

「六甲山の災害展」の開催について ～令和8年8月11日から23日まで～

兵庫県神戸県民センター六甲治山事務所・農林水産部治山課

「六甲山の災害展」は、平成9年の開催から今年で30回目を迎えます。

緑豊かな六甲山は、これまで幾度となく自然の猛威にさらされ、市街地にも被害をもたらしてきました。

昭和13年の阪神大水害や昭和42年の豪雨災害、平成7年の阪神・淡路大震災など、大規模災害の発生とともに復旧・復興の歴史が繰り返されています。

これまで、私たちが経験してきた阪神・淡路大震災等の教訓を風化させずに次世代に伝えていくためには、自然災害の恐ろしさや、防災の仕組みに関する情報を継続して発信していくことが大切です。

このため、「六甲山の災害展」では、「土石流模型実験装置」や「降雨体験装置」等の実演により、災害時の状況を目で見て体験いただけるほか、六甲山の災害の歴史等が学べるパネルを展示します。



土石流模型実験装置(左) 降雨体験装置(中) 保水力実験(右)

今年のパネル展示では、昭和14年から17年に実施された復旧工事の写真も展示します。先人達が取り組んできた六甲山の復旧の礎となる貴重な写真がご覧いただけます。

ご家族で防災について楽しく学ぶことができますので、夏休みの思い出にぜひご来場ください。

■「六甲山の災害展ポータルサイト」のお知らせ

展示内容や、防災情報を発信しています。

<https://rokkosan-saigaiten.jp/>



■開催日時

8月11日（火）から 8月23日（日）

9時30分から17時30分まで

（入館は16時30分まで・毎週月曜日は休館）

■開催場所

阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」

西館1階ロビー

（神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2）

■問い合わせ先

農林水産部治山課計画班 TEL：078-362-3471

“薬剤防除なしでも枯れにくい” マツ材線虫病 抵抗性アカマツ品種

「播磨の緑」の苗木生産を始めました

兵庫県林業種苗協同組合

松くい虫被害は、マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウによって引き起こされる日本最大の森林病虫害です。2024年度の全国の被害量は前年度比124%の約39万㎡となり、再び増加しつつあります。

被害対策のため、①予防対策（健康な松への薬剤散布（地上・空中）、樹幹への薬剤注入）、②駆除対策（被害木（枯れた松）を伐倒し、薬剤散布・くん蒸・破碎・焼却処分）、③樹種転換（被害が発生しやすい周辺エリアでは、松以外の木への植え替え）のほか、④松くい虫に強いひょうご元気松（抵抗性マツ）植栽による松林造成が実施されてきました。

このたび、松くい虫被害に強い「ひょうご元気松」をしのぐ抵抗性をもつ「播磨の緑」の苗木生産を始めました。

「播磨の緑」は加西市網引にある松くい虫激害林の生存木の中から抵抗性候補木として選抜した品種です。生存率が他の品種に比べて著しく高かったこの品種を2007年10月に、県は「播磨の緑」と命名し品種登録を行いました。その後、県は県内へのさら

なる普及に努めるため2016年に育成者権を放棄しました。一方で、「播磨の緑」は接ぎ木の活着率が低く、実用化に支障がありました。このため、接ぎ木の改良に取り組み、県緑化センターの吉野豊元所長（農学博士）、県森林林業技術センターの中川湧太研究員の手により、このたび接ぎ木手法を改良し、高い活着率が得られるようになりました。



周辺の松林は枯れてなくなるなか、防除なしで長く現存する播磨の緑（左写真）：兵庫県森林林業技術センター提供

■問い合わせ先

兵庫県林業種苗協同組合 TEL：078-351-0734

森林環境譲与税の活用事例

林務課林政調整班

朝来市（Ｊクレジット制度を活用した持続可能な森づくり）

- 朝来市は、市域の84%を森林が占め、そのうちの60%が人工林であり、持続可能な管理が課題となっている。
- このため、課題解決の1つとして、市行造林事業の森林整備によって生じるCO₂吸収量をクレジット化し、民間企業に売却し、収入を森林整備費用に充てることで、適切な森林管理を実現している。
- 平成22年度から発行しているクレジットの売却が進んだことから、新たなクレジット認証に向けて計画書を作成。

事業内容 カーボンオフセット推進事業

平成22年度から発行しているクレジットの売却可能な量が残り少なくなったため、令和8年度末までに新たなクレジット発行を行うべく、計画書作成の業務委託を実施。

【事業費】1,520千円（全額譲与税）

【実績】計画書作成のための業務委託一式
※手続きの流れ（今後の予定）

年 度	手続き
令和6年度	・プロジェクト計画書作成業務
令和7年度	・妥当性確認（現地・書類） ・クレジット制度認証委員会審議 ・プロジェクトの登録完了 ・吸収量算定・モニタリング、報告書作成
令和8年度	・報告書の検証（現地・書類） ・クレジット認証委員会審議 ・クレジットの認証・発行 ・売却開始

取組の背景

- ・朝来市は市域の84%を森林が占めているが、そのうちの60%は人工林であり、その持続可能な管理が課題となっている。
- ・課題解決のための1つとして、市行造林事業の森林整備によって生じるCO₂吸収量をクレジット化し、民間企業に売却し、収入を市行造林事業等の森林整備費用に充てることで、適切な森林管理を実現している。

工夫・留意した点

- ・発行したクレジットについて、新たな販路拡大が課題であったが、令和4年度に市内金融機関と「紹介制度」の協定を結び販売促進を図った。
- ・その結果、当初の予定よりも多く売却を行うことができたため、新たなクレジット認証の実施に繋がることとなった。

取組の効果

- ・本取組によって、森林資源の付加価値が創出され、循環型森林整備の推進に寄与している。
- ・新たなクレジットによる収入を財源に、市単独森林整備事業等のさらなる拡大や林業従事者の確保等が可能になる。
- ・市内企業等にも活用され、環境貢献企業としてのPR効果が期待される。



（Ｊクレジット収入を財源とした活動（自伐型林業研修））



（Ｊクレジットの購入式典）

基礎データ

①令和6年度譲与額	120,136千円
②私有林人工林面積（※1）	16,540ha
③林野率（※1）	84.0%
④人口（※2）	28,989人
⑤林業就業者数（※2）	116人

※1：「2020 農林業センサス」より、※2：「R2 国勢調査」より

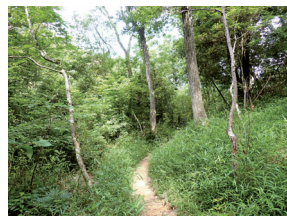
森林ボランティア活動

ブイブイの森クラブ

代表 岡田 祐作

当会は、住民が気軽に楽しめる里山公園の整備を目指す三田市まちなか里山公園整備方針に賛同した「里山セミナー」の受講生により平成30年3月3日に結成されました。活動地は三田市フラワータウンに隣接した南公園（三田市狭間が丘）であり、現地にはニュータウン開発以前の植生が残されています。

平成23年に人と自然の博物館により南公園の植生調査が行われた結果、15haの敷地内に273種の植物が確認されましたが、現地は照葉樹や竹が繁茂しつつあり、整備が必要な状況でした。



整備された散策道

平成25年には三田市により散策道の整備が行われ、同年に南公園の整備に協力する市民向けのセミナーが実施されました。そして卒業生によりブイブイの森クラブが結成され、当会による南公園の整備が開始されました。

住民が気軽に楽しめるまちなか里山林整備を掲げていることもあり、当会の主な活動は南公園内の竹や常緑樹の間伐、散策路の保全等が中心になっています。

これらの保全活動により、現在も活動地内で様々な動植物を見ることができ、四季に応じて様々な生物に出会うことができます。南公園の訪問者がより楽しめるよう、植物に詳しいメンバーを中心に、樹名板の設置や花をつける植物の保全に取り組んでいます。

また、活動初期から地元小学校等の環境体験学習会を受け入れ、里山の魅力発信に努めています。学習会では活動地内を巡り植物を解説するほか、竹チップの山に産み付けられたカブトムシの幼虫を間近で観察します。この他、地域住民を始め、多くの方が里山林整備に参加するよう「里山セミナー」の開催に協力させていただいています。

引き続き、ニュータウンの間近にある立地を生かし、住民が気軽に楽しめるまちなか里山林を目指し、活動を続けて参ります。



竹林周辺の清掃



カブトムシの幼虫

普及だより

「被害集落自立支援事業（スマート獣害対策モデル育成）」による 獣害対策支援の取組みについて

淡路県民局 洲本農林水産振興事務所

1 はじめに

淡路地域では全域でイノシシ、中部～南部ではシカによる農業被害が深刻であり、集落主体で効果的な獣害対策を行うことが求められています。

その対策として本県では、農林業被害が深刻な集落で、住民自らが主体的に獣害対策に取組もうとする地域を対象に令和4年度から「鳥獣被害集落自立サポート事業」、その後事業名の変遷を経て令和8年度からは「被害集落自立支援事業（スマート獣害対策モデル育成）」として、集落が行う獣害対策の支援を行ってきました。

当事業は指導を希望する集落に対し、県が「兵庫県獣害対策アドバイザー」を派遣し、研修会や巡回指導を通じて獣害対策の取組を支援し、またＩＣＴ機器の活用も促して、自立して獣害対策に取組める集落モデルを構築することを目指しています。

淡路地域では令和4年度以降これまでに当事業を活用して5集落で取組みを実施してきており、令和8年度は洲本市五色町の2集落を対象に集落指導を実施する予定です。今回はそのうち洲本市五色町鮎原宇谷集落での取組みを紹介します。

2 取組みの概要

鮎原宇谷集落は島外からの移住者の若手農業者が有機農法による高付加価値農業を営んでおり、作付面積は多くないものの令和7年度には約30a、200万円の農業被害が発生していました。

また、鮎原宇谷集落では金網等の集落柵が無く、防護については個人管理の電気柵に頼る状況が続いており、その電気柵も不適切な設置により機能を発揮出来ていないケースが見受けられました。

そこで当事業で獣害対策支援に着手した令和8年2月に県森林動物研究センターから講師を招き、電気柵設置講習会を開いて漏電等の不適切設置事例を共有し防護効果を高める取組みを行いました。



【R8.2 電気柵設置講習会（座学）の様子】

次の取組みとして令和8年度鳥獣被害防止総合対策事業で初の集落柵（ワイヤーメッシュ）の導入が決まった事もあり、令和8年5月に県立大学の支援も得て効果的かつ管理し易い集落柵線形検討会を開催しました。

検討会では集落代表から机上で共有された線形案を元に関係者が全延長（2km超!）を踏査により確認し、集落柵導入に向けた下準備を整えました。



【R8.5 集落柵線形検討会（現地）の様子】

3 今後の取組み

鮎原宇谷集落の取組みは始まったばかりで、担い手が不足する中での持続可能な捕獲体制の構築等課題は山積していますが、将来的に獣害対策モデル集落として管内他地域へ普及出来る様に取り組んでいきたいと考えています。

（洲本農林水産振興事務所森林課 鈴木 大智）

伐木災害防止研修のご案内

令和2年度から県立森林大学校主催で実施している「伐木災害防止研修」では、愛林興業(株)の松田氏に講師をお願いし、伐倒練習機を用いて伐倒技能を検証するなどにより、的確で安全な伐木作業を学んでいるところです。初心者からベテランの方まで、自らの技能を客観的に評価し、技能の向上を目指す良い機会かと考えます。

今後は、10月29日、11月17日、12月10日、1月26日の実施を予定しています。

県立森林大学校のホームページの「NEWS」に、



研修風景



兵庫県立森林大学校主催 6月～R9
1月開催 「伐木災害防止研修」お
申し込みフォーム

受講案内のチラシなどが掲載されていますので、そちらもご確認ください。

なお、林業技能検定制度の取組も始まっています。本研修は「技能士」認定に向けても、各自の技能を客観的に見てみるように、お勧めします。

林業入門セミナーの開催

森林や自然を対象にした仕事に関心のある方を対象に、「林業入門セミナー」を開催します。

都市部を中心に、平日夜の時間帯を活用した今年度からの新たな取り組みです。仕事帰りでも参加しやすく、林業について学べる貴重な機会となっています。

本セミナーでは、実際に林業関係で働く方の体験談を通じて、現場での仕事の魅力や実情を知ることができるほか、林業現場の見学も予定しています。

1 開催日程 令和8年8月～10月(全5回)

※林業現場の見学は休日の昼間に実施

2 募集人数 15名程度

(兵庫県営林緑化労働基金 村上)

林業体験講習の開催

林業への就職を希望する人を対象に、林業に就職するために必要な知識や資格を身に付け、林業への円滑な就職を支援する講習を開催します。

1 開催日程 令和8年11月7日(土)～14日(土)
※日曜日を除く

2 募集人数 8名

3 参加資格 林業への就職を希望する方

◇18才以上(講習時点)

◇体験講習の全日程に参加できること

◇自家用車等を利用して、ご自分で移動できること

4 参加料 無料

※教習所受講料は事前に直接支払ってもらいますが、講習修了者には全額補助します。

5 講習の内容

林業の基本的な知識の講習、林業施設の見学、チェーンソー資格講習、刈払機資格講習、林業作業(間伐、下刈り)の実施講習、就業・生活相談
※講習内容は天候等の都合で変更する場合あり

6 応募締切 令和8年10月15日(木) 必着



間伐作業の実施講習



木材市場見学

7 応募方法

(公財)兵庫県営林緑化労働基金のHPに募集案内チラシと受講申込書を掲載しています。必要事項を記載のうえ、Fax又は郵送で申し込んでください。

8 その他

宿泊補助もあります。詳細は募集案内チラシでご確認ください。(兵庫県営林緑化労働基金 中谷)

お問合せ 公益財団法人 兵庫県営林緑化労働基金
〒650-0012

神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号

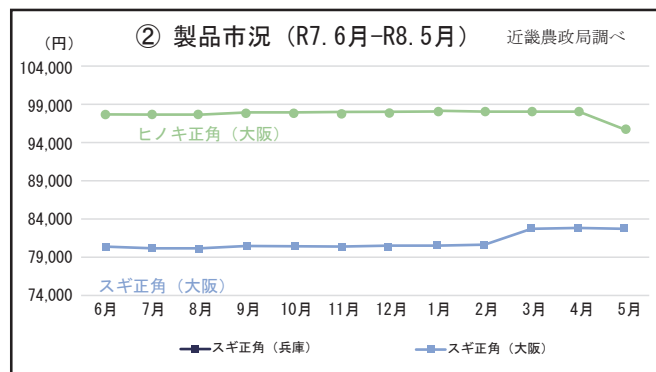
(兵庫県林業会館内)

TEL:078-361-8010 FAX:078-381-9116

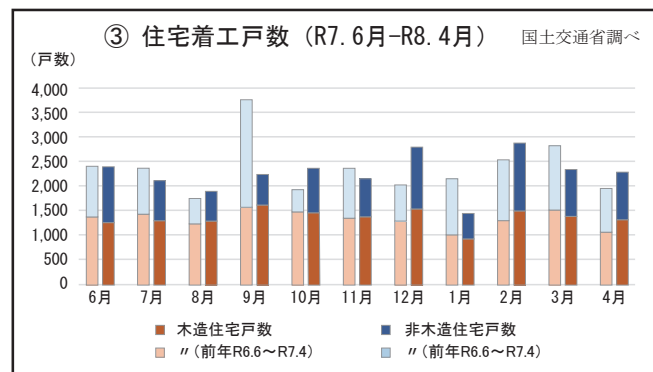
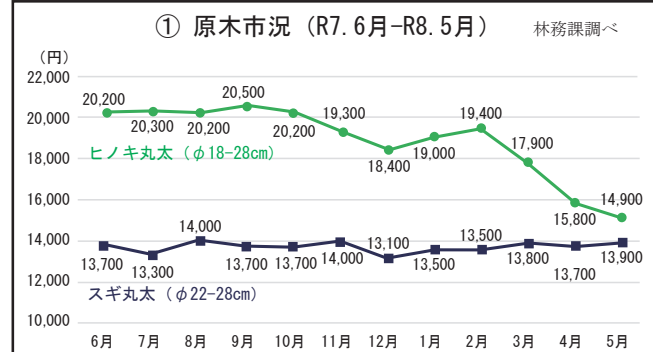
E-mail: zaidan@hyo-eirin.or.jp

＜兵庫県内の原木市況・製品市況・住宅着工戸数＞

- ・原木は、スギが13,500～14,000円/㎡で安定して推移する一方で、ヒノキは3月以降、合板向けが低調であったほか、土台製品の需要も鈍く、価格が急落した。
- ・製品は、スギは外材輸入製品の入荷が不安定な中で順調な荷動き。土台でのシェアが高いヒノキは、直近5月は住宅着工減の影響を受けて低調。
- ・住宅着工戸数は、大幅に落ち込んだ1月から回復し、改正建築基準法施行前の駆け込み需要があった前年3月を除き、前年実績を上回っている。



※木材流通統計調査(近畿農政局調べ製品価格)について、令和7年1月から兵庫県が調査対象外となったことから、以降の兵庫県製材品価格についての記載はありません。



ひょうご木の匠

ひょうご木の匠の会

兵庫県産木材の家



私たちは、兵庫県産木材を使い、人と環境に優しい木造住宅を提案し建築します。

ひょうご木の匠の会 会長 日置 尚文(日置建設(株))
(事務局) 神戸市中央区北長狭通5-5-18 兵庫県林業会議
<https://hyogo-kinotakumi.net> TEL:078-351-3341



緑の募金へのご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。
緑の募金は、森林ボランティア活動への支援や、子どもたちの環境学習などに活用しています。
ご協力いただける場合は、次の方法をお願いいたします。

ご寄附の方法

1 金融機関からのお振込み

- ①郵便局(手数料不要)
専用の払込取扱票をお送りしますので、当協会にご一報ください。
- ②銀行(手数料必要)
口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所
普通 3198438 公益社団法人兵庫県緑化推進協会

2 キャッシュレス決済(手数料不要)

ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでご協力いただけます。



募金のページQRコード

●賛助会員入会のご案内●

私たちの活動を応援して下さる賛助会員を募集しています。
入会金は不要です。
会員としてご支援いただきますようお願いいたします。(10,000円/年)

◇お問い合わせは◇

公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
TEL 078-341-4070 FAX 078-341-4071
HP <https://hyogo-green.net/>

兵庫県緑化推進協会

検索



三井化学グループ

エムシー緑化の松枯れ防除剤

松枯れ防止樹幹注入剤

マツガード[®]

マツガードクイック[®]

ハダニの適用拡大

マツノマダラカミキリ後食防止殺虫剤

マツガードフラッシュ[®]

販売元 **正和商事株式会社**

〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目3番4号
TEL 06-6203-4541 FAX 06-6203-4347



■540XPMarkⅢ



■質量：4.1kg
■排気量：39.1cm³
■出力：2.8KW

■T540XPMarkⅢ



■質量：3.8kg
■排気量：39.1cm³
■出力：2.8KW

本当の価値がわかる方へ！

最高のパワーウェイトバランスで耐久性も抜群。生産性をさらに高めるチェーンソー。革新的な技術を融合し、これまで以上の加速とトルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。新登場540XPMarkⅢ、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181(番代)

神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番

但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番



水源地域で公益的機能が発揮される森林を育成しています

緑をはぐくみ 水をつくる

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林整備センター Forest Management Center

水源林造成事業

●国民生活に不可欠な水の安定供給や国民の生命・財産を守るため奥地水源地域で水を育む森林を造成しています。

●奥地水源地域の保安林の、土地所有者自身による森林整備が困難な木の生えていない荒れ地で、**公的なセーフティネット**として森林を造成しています。

●森林を再生し、水源かん養や土砂流出・崩壊の防止を通じて「**緑のダム**」としての機能を確保しています。

神戸水源林整備事務所 TEL(078)362-5800

兵庫県水源林造林協議会 TEL(078)351-3341

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 5-5-18 (兵庫県林業会館5階)

詳しくはWebサイトをご覧ください **森林整備センター** 検索

物品・役務等 入札情報 採用情報 分収造林契約をお考えの方






“治山・林道測量”

は経験と実績のある

株式会社 石原測量コンサルタント

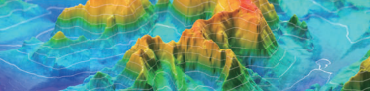
〒671-2542 兵庫県宍粟市山崎町船元250-1

Tel (0790) 63-1377

FAX (0790) 63-1398

E-Mail ishisoku-y@wine.ocn.ne.jp

国土交通省登録第24891号
県知事許可(般-2)第461481号





土と水と緑の技術で社会に貢献します。

コンサルティング事業

斜面防災 | 治山・林道
河川・砂防・海岸
地盤環境 | 環境・緑化

インフラ整備・メンテナンス

地すべり防止工事
斜面・のり面工事
インフラメンテナンス

研 究 開 発

InSAR | BIM/CIM
シミュレーション技術
空間情報技術

国土防災技術株式会社

神戸支店
神戸市中央区浜辺通2丁目1番30号(三宮国際ビル)
TEL:078-221-2213

但馬事業所
養父市八鹿町高柳字岸の下137番地の4
TEL:079-662-7108

▼会社HP 

土・木・緑・そして人
とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社 グリーン興産

〒671-4141 兵庫県宍粟市一宮町東河内1003
TEL 0790 (72) 1553 FAX 0790 (72) 2327

GREENKOUSAN

— 営業品目 —

森林部門 …… 素材生産・森林整備・危険木伐採

土木部門 …… 公共土木・一般土木工事

緑化部門 …… 公共緑化工事・一般造園工事

建築部門 …… 新築・リフォーム・エクステリア工事

E-mail: info@greenkousan.co.jp
URL: <http://www.greenkousan.co.jp>



災害のない安全で安心な社会

●治山、林道、造林事業の推進

●山地防災・土砂災害対策計画

一般社団法人 兵庫県治山林道協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL: 078-371-0210 FAX: 078-371-6632

HP **兵庫県治山林道協会** 



農林業&獣害対策資材はお任せください！

林業資材 安全装備品 ツリークライミング mont-bell

なんでもご相談ください

- ・獣害対策(ネット・金網)
- ・ドローン(調査・運搬)
- ・きのこ(種駒・菌床)
- ・法面緑化資材 など

カタログ等 → 

兵庫県産木材の木製品を販売しています

オリジナル木製品カタログ

大型家具からマグネットやキーホルダー、木製時計など高出力レーザー加工を得意としたノベルティ商品も可能です

木製品カタログ → 

ひょうご森林林業協同組合連合会

神戸市中央区北長狭通5-5-18
【TEL】078-599-7461 【URL】<https://www.hyogoforest.or.jp/>



ひょうごの木物語

第13回 日本土地山林株式会社の林業経営
(山林事業部 朝来市新井)

1 はじめに

当社の歴史は、創業者『原六郎』が明治33年に朝来で木を植え始めたことに始まります。「吉野林業中興の祖」と呼ばれる義父『土倉庄三郎』指導のもとスギ苗木を植え始めました。その後、昭和6年に日本土地山林株式会社を設立し、令和8年2月に設立95周年を迎えました。木を植え始めてから130年近く、地域の山と向き合い続け、現在では朝来を中心に1,920haの山林を経営しています。

2 近年の林業経営の特徴

・現場技術者の活気

高性能林業機械を活用しながら直営班1班、外部委託班3班にて社有林の搬出間伐を主に行っています。中でも直営班は全員が20代と若く、外部委託班を入れてもその平均年齢は33歳と活気に溢れているのが最大の特徴です。



全員が20代の直営班

・FSC®森林認証の取得

社有林1,920haのうち1,902haでは平成21年にFSC森林認証を取得しました。令和7年には自社のFSC認証材から木製ボールプールを作成し、地域の木育にも活用しています。(ボールプールはグループ会社の日林マテリアルが作成)

(日本土地山林ライセンスコード：FSC-C019765)

(日林マテリアルライセンスコード：FSC-C095175)



自社材を使った木製ボールプール

・スマート林業の実践

GISやレーザースキャナ、ドローンなどのスマート林業技術を導入した林業経営を実施しています。測量もGNSSやオルソ画像を先進的に導入し効率化を図っています。

・ドローンによる除草剤散布

令和6年に近畿初事例となるドローンによる除草剤散布を実施し、下刈りの省力化を図っています。

・原木の共同販売による材価向上

数年前より近隣の事業体と原木の共同販売を実施しています。長年、製材工場と直接取引をしている強みを活かしながら、他事業体と共同販売を行うことで原木価格向上に貢献しています。

編集後記

編集後記を書いているのは梅雨時のどんよりした曇り空の日です。今週末にはまた台風がきそうです。雨が全く降らないのは困りますが、とにかく大きな災害がないことを願うばかりです。

今回は、今年度の林業普及事業などの記事に加え、第5次山地防災・土砂災害対策計画や災害に強い森づくり第5期対策など今年度からスタートした治山関係の新たな取組などについて掲載しました。

当時、災害に強い森づくりに関わった身としては、もう20年もたったと思うと感慨深いものがあります。平成16年や平成21年の台風災害調査の時に、崩れた斜面から立ちのぼる湿った土のにおい、折れ重なった流れ木が積み上った

光景は今でも忘れられません。

最近、私たちの周りでは、線状降水帯の発生、酷暑や大雪、大規模な山火事、市街地へのクマの出没など、加速度的に環境変化が進んでいるように感じます。

森を守ることは、私たちの暮らしを守ることと同じです。目先のことに一喜一憂することなく、未来に向けて皆が協力して取り組まなければならないのが森づくりです。皆さんが山を歩くときや大雨のニュースに触れたときに、森づくりの大切さを思い出していただければうれしいです。

なお、2014年4月のNo268号以降の「兵庫の林業」は兵庫県林業会議のホームページにも掲載しています。是非、ホームページもご覧ください。

(編集事務局)

<https://hyogo-ringyoukaigi.com/>

